

平成30年度卒業証書授与式 学校長式辞

厳しい寒さも和らぎ、金華山の緑や長良川の川面にも春の兆しが感じられる今日のこの佳き日に、本校PTA会長 森 康次様、同窓会会長 中村 源次郎様をはじめ、多数のご来賓、保護者の皆様にご臨席を賜り、平成30年度岐阜県立岐阜北高等学校の卒業証書授与式を挙げてまいりますことを、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今、どのような思いでこの時を迎えているのでしょうか。思えば、3年前の入学式、皆さんは真新しい制服に身を包み、これから始まる高校生活に期待と不安を抱きながら本校での第一歩を踏み出されました。高校における学習の質の高さと量の多さに戸惑いながら、勉学に、部活動に、学校行事に、無我夢中で取り組まれてきたのではないのでしょうか。時には悩み、時には不安になり、ご家族の方を心配させたこともあったかもしれません。しかし、皆さんは立派に成長されました。

3年生の学校祭では、台風の影響で文化祭が順延され、文化祭二日目の朝は、暴風で吹き飛ばされた枝や落ち葉、ごみの片付けから始まりました。3年生の皆さんが率先して動く姿に、自分たちの手で文化祭を成功させようとする強い思いとリーダーシップを感じました。日暮れが早くなった初冬の放課後、自習室や教室で一心不乱に勉強している3年生諸君の姿に皆さんの志の高さを感じました。私は、そんな皆さんの姿を見るにつけ、岐阜北高校の生徒に誇りを感じます。まずは、皆さんの3年間のたゆまぬ努力に対し心より敬意を表します。

さて、皆さんがこれから船出する新しい時代は、どのような時代になるのでしょうか。

人工知能(AI)の進化やビッグデータの活用は、私たちの生活そのものに影響を与え、SNSの普及は、国境を越えた瞬時の情報伝達を可能にしています。日本の社会においても、企業が生産拠点を海外に移転したり、逆に海外から労働者を受け入れたりする機会が益々増加します。これからの社会においては、グローバル化や情報化の進展によって、異なる文化や価値観の中で仕事をしたり生活したりする機会が確実に増えます。一方で、国際社会においては、アメリカと中国との貿易摩擦、イギリスのEU離脱、自国第一主義の広がりなどグローバル化とは逆行するような動きもあります。皆さんがこれから船出する新しい時代は、社会の多様化が進み、変化の激しい、先の予測が困難な時代になると思います。そんな新しい時代に生きる皆さんに二つのこととお話しし、贈る言葉とします。

一つ目は、これからの時代を生きる皆さんには、多様性を受け入れる柔軟な考え方や感性を持ってほしいということです。私たちは、どうしても自分の考え方ややり方に固執しがちになります。しかし、それでは新しい発想は生まれません。多様性を受け入れ、粘り強くコミュニケーションを図る努力をすることによって、別の見方や考え方が生まれてくるかもしれません。是非、皆さんには異なる考え方や価値観を持つ人々に敬意を払い、それを理解しようとする柔軟な考え方や感性を身に付けてほしいと思います。

二つ目は、多様で変化の激しい時代だからこそ、失敗を恐れず自らの可能性を信じ、様々なことに挑戦してほしいと願っています。新たな旅立ちの時を迎えた皆さんは、これからの将来に様々な夢を描き、目的を持って見えることでしょう。その夢や目的を実現する道筋は、

決して一つではありません。時には回り道することもあります。時には失敗や挫折を経験することもあるかもしれません。大切なことは失敗したときにそれをどのように受け止め、その経験からいかに学ぶかだと思います。その時々には試行錯誤し、経験から学び、挑戦し続けることができると新たな道が拓けてくるはずです。

さあ、卒業生の皆さん、旅立ちの時です。いよいよ今年はやがて元号が変わり、「平成」に次ぐ新しい時代を迎えます。皆さんの未来は可能性に満ちています。皆さんが新しい時代に向けて、自分にしかない道を切り拓かれることを心より祈っています。

最後に、ご臨席賜りました保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この3年間、様々なことがあったこととご推察します。嬉しい時には共に喜び、自信を失いかけた時には励まし、時にはともに涙されたこともあったかもしれません。そのようにしてお子様の成長を支えてこられたご家族の深い愛情と絆に敬意を表しますとともに、本校の教育活動に対し、ご理解とご支援を賜りましたことに対し心より感謝申し上げます。有難うございました。

卒業生の皆さんの新しい時代におけるご活躍とご多幸を、今一度、心より祈念申し上げます。式辞とします。

平成31年 3月 1日

岐阜県立岐阜北高等学校
校長 高木 俊明